

薬局における上気道炎患者への対応

修琴堂大塚医院 渡辺 賢治 先生

薬局における上気道炎患者への対応

東京都新宿区
修琴堂大塚医院 渡辺 賢治*

はじめに

冬になると急性上気道炎が流行するが、薬局における急性上気道炎への対応の要点について整理する。

漢方治療では、上気道炎などの急性熱性疾患と、糖尿病などの慢性疾患では、治療方針を異にする。急性熱性疾患の場合には、時間経過とともに、症状がどんどん変化して、証を的確に捉えることが何よりも肝要である。傷寒論における「随証治之」が最も重要視される局面である。「方証相對」という言葉に代表されるように、「方」と「証」が鍵と鍵穴の関係にあるとされるのは、症状の変化が急である急性熱性疾患の場合にこそ実感される。大塚敬節や荒木性次が患者宅に往診して一晩中脈を診て処方を変えていったというエピソードが残っているのはこのためである。

読者は漢方に詳しい薬局の先生方であるので、本稿では、専門用語の細かい説明は割愛し、急性上気道炎の漢方治療の要点についてまとめる。

まずは急性上気道炎の病期を見極める

急性上気道炎の診療の要諦は六病位のどこに病気の主座があるかを見極めることである(表1)¹⁾。傷寒論における急性熱性疾患は相対的徐脈がみられることと、目の合併症があることから「腸チフス」とされているため、太陽病の次に裏実の陽明病が来るが、通常の急性上気道感染症は太陽病の次に半表半裏である呼吸器系に病座が移るので、太陽病⇒少

陽病へと移行する。しかし、日ごろ体力がない高齢者や虚弱者の場合、寒さばかりが表立って熱感が少ない場合も多い。このような時には陽病を飛ばして少陰病から始まったものとして、「直中の少陰」と称す。

時間経過とともに、回復するが、その過程において、咳や痰が長引く場合があり、その場合には症状に焦点を当てた治療を行う。上気道炎症状が取れても倦怠感・微熱・寝汗などが残る場合には「調理の剤」と言われる、体力回復のための補中益気湯を用いる。

表2に急性上気道炎の経過に応じた代表的な漢方薬の使い分けについて載せる。以下、各論についての解説を行う。経過日数に関しては目安を示すが、これにこだわることはない。

太陽病期の漢方治療(発症から3日以内)

通常は症状が出た時を急性上気道炎の始まりとするが、実際には、鼻腔や咽頭からウイルスが侵入し、1日に数万コピーもの増殖を行うため、症状が出る前に既にウイルスは体内で増殖している。太陽病期の代表的な漢方薬は葛根湯だが、症状が出る前に、少しでもぞくぞくしたり、「風邪を引きそうな予感」がしたら、すぐに飲むのが理想である。この段階であれば、1、2服の服薬で済んでしまう。エキス剤の場合には熱湯に溶かして飲む方が、カラダは早く温まる。加えて徹底的な保温、保湿、安静を心がける。カラダが温まってきたと思ったら風邪が抜けた感じがするであろう。

葛根湯、桂枝湯を使い分ける一番のポイントは自汗があるかどうかである。熱はウイルスを排除するために合目的に産生するものであり、子供は高熱が出てすぐに治るのに対して、高齢者は熱が出にくく、治るのも時間がかかる。下手をすると無熱性肺炎になったりする。漢方薬は熱を産生する補助をするが、自汗があると熱放散が起こり、体温上昇がままならない。自汗の有無は背中が湿っているか、乾燥しているかで鑑別できる。

葛根湯、麻黄湯はもともと熱産生能力が高い実証の人に対して投与するもので、自汗がない場合に用いる。麻黄湯は薬味が少ない分だけ効果はシャープで、インフルエンザのようにウイルス増殖速度が速く、初期から関節痛、筋肉痛などを伴う場合に用いる。

それにくらべると桂枝湯、香蘇散は虚証向けの薬である。『傷寒論』の桂枝湯の方後の注意にあるように、桂枝湯の薬力は弱いため、温かいものを食べたり、布団をかぶったりという補助が必要になる²⁾。香蘇散は大塚恭男が多用していた薬で、急性上気道炎の経過中、幅広く用いることができる漢方薬である。

熱産生能力が低く、寒さばかりが目立つ「直中の少陰」の場合には麻黄附子細辛湯、真武湯を用いる。どちらにも附子が配合されていて、桂枝湯でも体温を上昇させることができない人に、無理矢理に体温を上げるイメージである。真武湯は胃腸虚弱で、風邪の初期から冷えて下痢をするような者に用いる。

少陽病期の漢方治療(発症から3~7日)

少陽病期は病座が「表」から「半表半裏」に移行したため、半表半裏(胃・肺)の症状が現れ、嘔気や咳・痰といった症状が出てくる。葛根湯や麻黄湯では対処が不可能な状態になったことを示している。すなわち発熱と

いうウイルス排除機構に加えて、咳・痰というウイルス排除機構を最大限に活用する段階に来たということになる。

小柴胡湯をはじめとする柴胡剤で対処するが、ここでは小柴胡湯に加えて、やや虚証で、表証が残っている場合に用いる柴胡桂枝湯を挙げる。

服用期間は太陽病よりも長く、太陽病の漢方薬がせいぜい3日くらいの処方なのに対し、少陽病の処方では7日~10日間の服用を必要とする。

長引く咳・痰への対処(発症後7日過ぎ)

解熱しても咳や痰が長期に続く場合がある。痰を伴わない乾燥した咳の場合には麦門冬湯を用いる。気道にへばりつくような痰を無理に出そうと激しく咳き込むために顔が真っ赤になるような状態になることがあり、これを「大逆上気」という。麦門冬湯を使用する目標になる。

痰が少し多くて、気道収縮を伴うゼーゼー・ヒューヒューという喘鳴を伴うような場合には麻杏甘石湯を用いる。

夜寝床に就くと咳き込んでなかなか寝付けない、という場合には竹茹温胆湯を用いる。

一旦こじれると、咳が長引くこともあり、服用が長期になることもある。倦怠感を同時に伴う場合には、上記処方に加えて補中益気湯を併用し、体力の回復を図る。

調理の剤

上気道炎症状が取れたのにも関わらず、倦怠感、寝汗、微熱が続く、などの症状が見られたら、体力の回復を図るために、補中益気湯を用いる。通常1~2週間の投与だが、場合によっては4週間以上の継続服用が必要な場合もある。

* わたなべ けんじ
慶應義塾大学医学部卒業、同大医学部内科学教室、米国スタンフォード大学遺伝学教室で免疫学を学ぶ。帰国後漢方を大塚恭男先生に学ぶ。慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学教授を経て2019年より修琴堂大塚医院院長、慶應義塾大学医学部客員教授。

柴葛解肌湯について

柴葛解肌湯は浅田宗伯の創方になる。『勿誤薬室方函』には「太陽、少陽の合病、頭痛、鼻乾、口渴、不眠、四肢煩疼、脈洪数なる者を治す」(『勿誤薬室方函』)とある³⁾。合病と併病については、ここでは誌面を取らないこととするが、簡単に言うと、合病の場合、病座は一つであるが、他の病位に影響を及ぼしている状態である⁴⁾。一つ例として、「太陽と陽明の合病は、必ず自下痢す、葛根湯之を主る」(『傷寒論』太陽病中篇)を挙げよう²⁾。この場合、病気の主座はまだ太陽病位である。しかしながら、陽明にまで病変が及んで、その結果自下痢を来す。よって治法は太陽病期の葛根湯単独で良い。病初期から下痢をするような風邪によく効く。

一方併病に関しては、「二陽の併病、太陽初め病を得るの時、その汗を發し、まず汗出でて徹せず、因って陽明に転属す。続いて自ら微しく汗出で、悪寒せず、此の如きは小しく汗を發すべし。設し面色縁縁として正赤の者は、陽氣怫鬱として越すを得ず、その人但坐す。さらに汗を發すれば則ち癒ゆ」(『傷寒論』太陽病中篇)とあり²⁾、先表後裏の原則が生きている。これを治療するには太陽病の処方投与した後に、陽明病の処方投与し、2つの処方で治癒に導く。

柴胡桂枝湯(小柴胡湯+桂枝湯)、柴葛解肌湯(小柴胡湯+葛根湯)はこれを一つの処方とみなせば合病となるが、二つの処方とみれば併病となる。

柴葛解肌湯に関しては、創方した浅田宗伯が「合病」と述べており、『勿誤薬室方函口訣』において、その解説として「此方は余家の新定にして、麻黄葛根二湯の証未だ解せず、既に少陽に進み、嘔渴甚だしく、四肢煩疼するものに宜し」と解説している⁵⁾。麻黄

湯・葛根湯が行くような病勢が強く、進行が早い場合に、太陽病の病症を残しながら、既に少陽病位に病座が移ってしまっているのである。柴胡桂枝湯の場合は、桂枝湯で処理できるような弱い病勢であるから進行もゆっくりで、明確な太陽病期があり、まず太陽病の治療をして、病座が少陽病位に転座してから投与する余裕があるのに対し、柴葛解肌湯の場合は、太陽病位に邪が入ると間髪を置かずに少陽病位に転座し、太陽病期と少陽病期の時間的差異がほとんどないために、急性上気道炎の発症と同時に投与する機会が多い。

スペイン風邪で著効した柴葛解肌湯

1918年に全世界で多数の死者を出し、わが国の死者数も内務省衛生局統計によれば、39万人と言われているスペイン風邪の流行時に浅田宗伯の弟子の木村博昭が柴葛解肌湯で多くの人を救った。これだけの死者を出すので、相当に病勢が強かったことが容易に想像できる。このように激烈に進行するウイルス性上気道炎に対しては、躊躇なく病初期から柴葛解肌湯を用いるべきであろう。

現在流行している新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)はどうであろうか? 通常の新型コロナウイルスは鼻粘膜、咽頭でウイルスが増殖し、くしゃみや咽頭部の痛みから始まるが、SARS-CoV-2の場合には、上気道の症状が軽く、肺の奥深く(肺胞)で増殖して、いきなり肺炎症状を呈する。初期の上気道の症状を見逃さなければ表2にある太陽病期の治療から始めるが、いきなり肺炎症状を来す点がこのウイルスの怖い点である。その意味において、初期から柴葛解肌湯で治療する。筆者も第一波で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療を経験したが、病初期から柴葛解肌湯を用いたのはこのような理由

による。小柴胡湯加桔梗石膏と葛根湯のエキス剤を合方してもよいが、甘草の重複があることと、柴葛解肌湯のエキス剤がせっかくあるので、こちらを用いるのがよい。

柴葛解肌湯の使用目標

柴葛解肌湯を用いる目標は、浅田宗伯が述べているように、麻黄湯・葛根湯が飲めるくらい体力のある人である。すなわち、体力は中等度以上で、風邪を引いた時に自汗がなく、熱を上げる能力が備わっている人である。高齢者、虚弱者で汗をかいているような人には投与すべきではない。

病初期であろうと、病勢が強く、下気道(気管支・肺)にまで病変を来していることを疑ったら、迷わず用いるべきである。

COVID-19への対応

本稿を書いている12月はじめにもCOVID-19は第三波として猛威を振るっている。漢方薬の場合、SARS-CoV-2をターゲットとした治療ではない。しかし、生体防御能を最大限に引き出して、ウイルス感染に対応するので、変異が激しいRNAウイルスであるSARS-CoV-2のどの遺伝子型でも治療原則は変わらない。

COVID-19は非常に特殊なウイルス感染症である。まず第一に潜伏期間が長い。肺炎が進行しても無症状なことがある。第二に受容体であるACE2の発現が全身にわたっているため、多彩な後遺症を残す。筆者もCOVID-19の治療に当たってきた経験を含め、治療法のまとめを発表してきたが、証が多岐にわたっていて、気が抜けない⁶⁻⁸⁾。従って証の変遷をこまめに見極めて適宜処方変更をする必要がある。まさに逐機が強く要求される疾患である。基本的な処方については表2に記載したが、さらに詳しい内容は、医事新報の「新型

コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する漢方の役割⁹⁾や漢方産業化推進研究会版「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する未病漢方活用法」をご参照いただきたい¹⁰⁾。

養生指導を欠かさずに

漢方薬の効果を最大限に引き出すためには、基本的な生活指導(養生)が欠かせない。急性上気道炎に関しては、安静・保温・保湿の3つを基本とする。ウイルスは時間とともに指数関数的に増加する。病初期にしっかりと安静を取ることが重要である。保温は、着るものに加えて食事でもしっかりとカラダを温める。保湿に関しては、特に冬期は、乾燥して粘膜の腺毛運動も衰えるので、部屋の加湿をしっかりとすることが必要である。マスクは保湿にもなるので良い。

その他基本的な養生に関しては『未病図鑑』¹¹⁾に詳しく書いたので参考にさせていただければ幸いである。

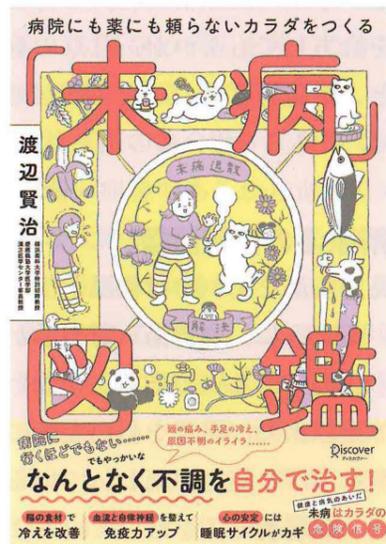
さいごに

急性上気道炎に対する漢方治療の要点について述べた。急性上気道炎では、『傷寒論』の六病位を見誤らないことが何よりも肝要である。ウイルスの増殖速度はとてつもなく速いが、生体もそれに対抗してさまざまな生体防御機構を働かせる。それが発熱や咳などの不快な症状として現れるのであるが、そうした症状から、病期を的確に判断し、それに見合った処方を用いることで、効果を上げることができる。

漢方は慢性疾患にしか効かないと思っている人が多いようだが、感染症こそ漢方の出番である。傷寒論をはじめとして、日頃鍛えた漢方の知識を最大限に活用し、患者さんのために役立てて欲しい。

〔参考資料〕

1. 渡辺賢治著 マトリックスでわかる！漢方薬使い分けの極意 2013年 南江堂 東京
2. 大塚敬節著 傷寒論解説 1966年 創元社 東京
3. 浅田宗伯著 『勿誤薬室方函』 近世漢方医学書集成 95巻 1982年 名著出版 東京
4. 藤平建 合病と併病との相違について 日本東洋医学雑誌 1983; 34: 109-114
5. 浅田宗伯著 『勿誤薬室方函口訣』 近世漢方医学書集成 95巻 1982年 名著出版 東京
6. 渡辺賢治ら。清肺敗毒湯による新型コロナウイルス感染症の治療経験 漢方の臨床 2020; 67: 785-790.
7. 渡辺賢治 ウイルス感染症に対する漢方治療 アンチエイジング医学 2020;16:331-335.
8. 渡辺賢治 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 第2波に向けての漢方活用 薬事日報 2020年7月29日号 2020;12339:4-5.
9. 渡辺賢治ら 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する漢方の役割 医事新報 2020; 5008: 44-52.
10. 渡辺賢治ら 漢方産業化推進研究会版「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する未病漢方活用法 <https://kampo-promotion.jp/topics/2020/04/20200430105026.html> (2020年12月6日アクセス)
11. 渡辺賢治著 未病図鑑 2020年 ディスカバー・トゥエンティワン、東京。



漢方の養生法について分かりやすくまとめた本。
患者さんへの説明用として便利。

表 1. 傷寒論における六病位

| 病位 | 病気の主座 | 説明 | 症状 |
|-----|-------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 太陽病 | 表 | 風邪の引き始めで病邪がまだ表にある | 悪寒、発熱、頭痛、項強、脈は浮 |
| 陽明病 | 裏 | 病邪がお腹にまで達して高熱が出る | 悪熱、潮熱、譫語、不大便、脈は実緊または滑 |
| 少陽病 | 半表半裏 | 病邪が胃や呼吸器 (半表半裏) に達するため、嘔気、咳・痰を生じる | 往来寒熱、胸脇苦満、心煩喜嘔、口苦、咽乾、目眩、舌上白苔、脈は弦 |
| 太陰病 | 裏 | 長引いて消化器機能が落ちてくる | 腹満、嘔吐、食下らず、自利、時に腹痛、手足温で不渴 |
| 少陰病 | 裏 | 体力が消耗して倦怠感が強い | 脈微細、但寢んと欲す。心煩、自利、口渴、手足寒あるいは咽中痛 |
| 厥陰病 | 裏 | 体力が落ちきって熱産生ができない重篤な状態 | 消渴、気心に上撞す。心中疼痛、餓えて食を欲せず。吐利甚しく、四肢厥逆す |

表 2. 六病位における代表的な処方

| 症位 | 説明 | 処方 | 使うポイント |
|-------------|---------------------------------------|--------------|---|
| 太陽病 | 発病して3日以内。自汗なし。 | 麻黄湯 | 平素体力があり、急性上気道炎の勢いが強く、体の深く入り込む。悪寒、発熱に加えて関節痛、筋肉痛を伴う。 |
| | | 葛根湯 | 平素体力がある程度ある。急性上気道炎の初期で寒気がする。首筋が張る、頭痛、熱の出始めに効果あり。 |
| | 発病して3日以内。自汗あり。 | 桂枝湯 | 日ごろから体力があまりない。急性上気道炎を発症してすぐに汗をかき始める。のぼせ、鼻炎、頭痛などを伴う。 |
| | | 香蘇散 | 比較的体力がない。発熱、頭痛、不安、不眠、抑うつ傾向などの精神神経症状を呈する。食欲不振、悪心、腹部膨満感などの胃腸症状を伴うことがある。風邪のどの時期でも効果があり、繁用性が高い。 |
| 少陰病 (直中の少陰) | 寒気が強く、熱感がない。高齢者、虚弱者は上気道炎の初期から少陰病を呈する。 | 麻黄附子細辛湯 | 顔色が蒼白く体全体が冷や冷やする。熱感はない。微熱はあるが、汗もかかない。頭に鈍い痛みがあり、倦怠感が強い。水様性鼻汁や咳。のどがチクチク痛む。関節など手足の冷えや痛みを伴うこともある。 |
| | | 真武湯 | 平素冷えがあり、胃腸が弱い。下痢を伴うことがある。だるくて横になりたい。 |
| 少陽病 | 発病して3日~7日。嘔気、咳・痰 (半表半裏) の症状が出現。 | 小柴胡湯 (加桔梗石膏) | 熱が上昇し、咳・痰が出始める。扁桃腺やリンパ節が腫れる。歩いていてもふらふらしてしまう。咽頭痛が強い場合には桔梗石膏を加える。 |
| | | 柴胡桂枝湯 | 小柴胡湯の目標に加えて頭痛、関節痛などがある。小柴胡湯よりやや体力がない人の上気道炎。 |
| 太陽と少陽の合病 | | 柴葛解肌湯 | 太陽病の表証があるうちに、咳・痰などの呼吸器症状を呈し、急激に進行する急性上気道炎。 |
| 長引く咳・痰 | 上気道炎を発症して7日経過し、咳・痰がしつこく残る。 | 麦門冬湯 | 空咳が取れず、痰を出そうとして、顔が真っ赤になるまで咳き込む (大逆上気)。 |
| | | 麻杏甘石湯 | 痰があまり多くない咳で時にゼーゼーと音がする。発汗傾向があまりのどが渇く。胃腸は丈夫。 |
| | | 竹茹温胆湯 | 咳・痰が残り、夜横になると咳き込んで眠れない。 |
| 回復期 | 上気道炎の症状は取れたが、すっきりしない。 | 補中益気湯 | 上気道炎の症状はほとんど取れているが倦怠感、微熱、食欲不振、寝汗などが残る。 |

表 3. 太陽病・少陽病期の処方構成の比較

| | 葛根 | 麻黄 | 桂皮 | 芍薬 | 大棗 | 甘草 | 生姜 | 柴胡 | 黄芩 | 半夏 | 人参 | 石膏 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 桂枝湯 | | | | | | | | | | | | |
| 葛根湯 | | | | | | | | | | | | |
| 小柴胡湯 | | | | | | | | | | | | |
| 柴胡桂枝湯 | | | | | | | | | | | | |
| 柴葛解肌湯 | | | | | | | | | | | | |